

テーマ 「病理検査の基本を学ぼう ～各施設での切り出し業務について～」

主催 病理検査研究班

実施日時：令和3年5月14日（金） 18時00分～19時00分 Web環境

点数：専門教科－20点

講演1：「当施設での切り出し業務について ～その①～」

講師：荻 真里子（北里大学メディカルセンター 病理部）

講演2：「当施設での切り出し業務について ～その②～」

講師：松本 絵里香（獨協医科大学埼玉医療センター 病理診断科）

講演3：「当施設での切り出し業務について ～その③～」

講師：高橋 俊介（株式会社 ピーシーエルジャパン 病理細胞診センター）

司会：岡村 卓哉（獨協医科大学埼玉医療センター 病理診断科）

参加人数：会員 73名 賛助会員 0名 学生 2名

出席した研究班班員：岡村卓哉、関口久男、森田繁、荻真里子、細沼佑介、高橋俊介、今村尚貴、小島朋子、三鍋慎也

研修内容の概要・感想など

今回は「病理検査の基本を学ぼう ～各施設での切り出し業務について～」をテーマに3名の講師に自施設での切り出しについてご講演いただいた。

荻氏の講演では、切り出した組織に応じて使用するカセットの種類を変えたり、スポンジを用いたりして美しい標本を仕上げるための工夫をされているとのことであった。松本氏の講演では、脱脂不良になりそうな検体を検体カゴの端に配置し、薬液の浸透を良くする工夫をされているとのことであった。高橋氏の講演では、切り出し時の様子を動画撮影し、問題が発生した場合の確認に用いているとのことであった。取り扱う検体数も多く、業務が統制されている様子が感じられた。今回の講師は大学病院、衛生検査所に勤務されている方々で、それぞれの施設に合わせた手法や工夫がなされており、同じ切り出し業務でも様々な方法があることがわかった。

参加者からは、切り出しに用いるまな板の材質や、連休前の切り出しはどうしているか等、現場で役立てたい質疑が行われ、興味深い内容だったことがうかがわれた。本研修での内容が、一つでも現場の業務の参考になれば幸いである。

（文責：三鍋 慎也）